

2015年度 学校評価総括

関西創価高等学校

【教育基本目標】

基本方針	〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の資質を育む教育活動の実践 〔Ⅱ〕「可能性」と「心」の育成の推進
学校運営	本年度より文科省SGH（スーパーグローバルハイスクール）校として5年間の取り組みを行うに際し、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との本校の最も大切な平和の信条から出発した新たな「世界市民教育プログラム」を構築してまいりたい。 同時に、その主体者たる生徒自身の限りない可能性を開き、世界平和を担う「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を育んでいく。 以上の理由から、本年度基本方針を上記のように定め、全教職員が心を合わせ全力で取り組んでまいりたい。 また「連携」をキーワードとし、「高大連携」「小中高連携」「保護者連携」「教員間連携」「SGH校連携」を念頭に置き、以下の目標を達成していく。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	達成度評価	評価平均値	学校関係者評価	評価の分析・実践と今後の展望
教育活動・実践における重点項目	〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のため	1. スーパーグローバルハイスクールの研究開発構想の着実な実施	GRITの実施・さらなる充実 UPクラス・グローバルシスティングセミナーの開催 ラーニング・クラスターの充実・発展 各種SGHフィールドワークの実施 各教科によるアクティブ・ラーニングの試み	A	3.4	この2年間（SGHの取り組みがスタートして）で、学校が大きく変わった印象がある。進化したという感じだ。 SGHになって、さまざまな取り組みが始まったが、その取り組みや新たな制度を生徒が活用し切れていない。	SGHの取り組みとして、全校生徒で実施するGRITの学習やグローバル・システィングセミナーを通して、世界市民として必要な地球的課題探究への意識・関心が高まった。 →研究を重ね、来年度もさらなる拡充を目指す。
		2. アクティブラーニングの推進	全教員を対象にしたのアクティブ・ラーニング研修を実施 授業・GRITにおけるアクティブ・ラーニングの導入と実践	B		学園生に、SUAをはじめとする「世界」と触れさせてあげたい。もっと機会を作りたい。 できれば海外に行かせてあげたい。	アクティブラーニング導入の意識は大いに高まり、教員も努力しているが、まだまだ満足できる域にまでは達していない。 →校内研修の実施回数を増やし、校外での勉強会にも積極的に教員を派遣する。
		3. 「環境・開発・人権・平和」をテーマとした探究型総合学習GRITの推進	校内の環境フィールドワーク 蜚の学習/アースカムプロジェクト体験 貿易ゲーム 持続可能な開発目標（SDGs）学習 人権学習/世界人権宣言学習 核軍縮交渉シミュレーション グループでのまとめ・プレゼンテーション	A		学園はSGHによって教育内容が充実した。 全員でSGHの取り組みを行っているのはよい。 開発をテーマにすると、海外に目が向きがちであるが、防災・過疎化対策など、国が力を入れているプロジェクト等に取り組むのもよい。世界を見て、地域を見る。この流れが大事だ。地域の問題を解決できる力を持った人材を育ててほしい。	SGHの取り組みとして、全校生徒で実施するGRITの学習やグローバル・システィングセミナーを通して、世界市民として必要な地球的課題探究への意識・関心が高まった。 →教員自身が地球的課題を研究し、これまでは異なる分野にも目を向けたい。
		4. 高大連携プログラムの強力な推進（創価大学・アメリカ創価大学を中心として）	創大・創短大説明会（1年次・3年次）、GCP説明会の実施 創大研修（2年次）の実施 UPクラスの実施 SUA首脳との懇談会・SUA学生（本校卒業生）との懇談会の実施	A			大学説明会・アドバンストサイエンス・グローバル・キャンパスやSUA首脳との懇談会、SUA留学生との交流等、大学に対する関心を深める機会を多くもつことができた。 →生徒からの要望も取り入れるなど、工夫したい。
		5. 国際的に活躍する卒業生、国際機関との連携強化	グローバル・システィング・セミナーの実施 懇談会の実施 SGH海外フィールドワークの実施	B			グローバル・システィング・セミナーの実施で目標はほぼ達成しているが、まだまだ拡充の余地あり。 →視野を広げ、講師のパリエーションを増やしたい。
		6. 英語力の強化と各種語学試験の成績向上	TOEIC講座の充実 検定試験受検補助 創大留学生を招いてのグローバル・キャンパスの実施 多読教材の整備・拡充と活用 英語暗唱弁論大会・英単語コンテストの実施 各種語学コンテストへの出場	B		4技能を見る試験が話題だが、英検を受検するのがよい。 大学にあるような教職員向けの英語の研修はあるのか。グローバル教育を推進するためには、語学力が必要。教職員にも英語の研修を行うべきだ。	グローバル・キャンパスやSUA首脳との懇談会、SUA留学生との交流等、英語学習への動機づけの機会を多くもつことができた。 英語検定試験受検への補助によって受検者が増加した。 →各級の合格者を増やす努力をする。対策講座の開講。
		7. 環境教育（アースカム・蜚などの保存運動）の充実と発展	校内の環境フィールドワークを実施 アースカムプロジェクトの継続とGRITにおける全校生徒のアースカム体験の実施 蜚・蓮・桜・竹林・鯉などの保存会活動の実践	C		すばらしい取り組み。またハイレベルな内容だ。今後の活躍を期待したい。 新たな世界市民としてのグローバルリーダーの育成・輩出に期待もしている。	SGHの取り組みから、環境への意識は高まっている。各種保存会の活動も活発。課題は、これらの取り組みが校内に留まっていること。 →これまでの取り組みが校外での運動等に発展することを目指す。
		8. 種々のコンテスト・コンクールに積極的に挑戦	人権作文コンクールへの応募と入賞 高校模擬国連他、国際大会につながるコンテスト・コンクールでの活躍 NIEいっしょに読もう！新聞コンクールへの応募と入賞 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト（JICA）への応募と入賞	B			人権、平和、環境等の種々のコンテストへの意識が高まり、応募者とともに入賞者も増加。 国際大会への進出も実現。 →応募するコンテストの種類をさらに増やし、生徒の持っている力を引き出したい。
		9. 学識者を招き、講座や講演会を実施（SP、Global Citizenship Seminar）	グローバル・システィング・セミナーの実施 ラーニング・クラスターメンバーへのワークショップの実施 アドバンスト・サイエンス・セミナー等高大連携プログラムの実施 弁護士による人権講座を実施	A			グローバル・システィング・セミナーの講師の開拓や高大連携プログラムのさらなる発展等、課題はまだあるが、生徒への波及効果は大きい。 →実施回数の増加、質の向上を目指す。振り返りなど、講座のあとの学習を充実させたい。
		10. ICT教育の充実	情報リテラシー教育の実施 教師・生徒のIpad活用の実施と促進	B			ICT環境は、日々充実してきている。 →今後の課題は、教員がICTの活用に習熟し、学習に効果的に取り入れるようにすること。

教育活動・実践における重点項目

〔2〕「可能性」の育成のために	1. 家庭学習の定着・増進による基礎学力の向上と反転学習の推進	SPのBasicコース開講 各教科における日常的な問題集の活用	C	3.2	家庭でもUPクラスのことを話題にするぐらい内容が充実していると感じる。 活発に活動をしている。クラブをはじめ、やりたいことが多すぎて参加しきれない。 勉強に対する意識は高まってきているが、全部に全力投球となると時間が足りない。 放課後の行事の交通整理をお願いしたい。 生徒の教育力向上は教員の授業力に掛かっている。生徒の授業アンケートを参考に教員の授業力をより向上させてほしい。	→反転学習の導入。
	2. 学校設定科目SP、Learning Clusterの充実で、生徒のニーズに対応	SPクラス (Advanced Math・Basic Math) の実施 SPクラス (Advanced English・SUA English) の実施 ラーニングクラスターの充実 SGH海外フィールドワークの実施	A		放課後に実施したSPクラスで学力とともに進学実績も向上した。UPクラスを開講したことで、大学レベルの学問にふれ、学習に対する意識が大いに向上した。 →放課後に実施することで、リーダー育成講座をはじめとする諸行事と重なり、生徒の活動に影響が出ている。 新カリキュラムの編成とも関わる問題。講座と放課後の諸活動の整理をしたい。	
	3. スタディサポートテストや創大推薦模擬試験の効果的利用 (分析と対策の充実)	春休みの課題としてスタディサポートの問題集を活用 (1・2年次) 1年次から2年次の夏まで、4回のスタディサポートテストを実施 2年次夏と冬に創大推薦模擬試験を実施	A	3.2	テストの結果を受けてきめ細かな学習指導をして欲しい。 図書館が充実していて良い。 中3でもっと高校の情報を提供できればと思う。 中3の3学期の過ごし方に対して、高校からもっとアドバイスが欲しい。 高3を派遣して、中3と懇談会を行っているが、回数が少ないのかも知れない。 学園に子どもを預ける保護者は、勉強も大事だが、子どもの人間としての成長を楽しみにしている。人間教育の実践の模範をこれからは教職員一丸となって進めて欲しい。	スタディサポート (ベネッセ) の実施により、学力と学習習慣両面からの把握が可能となり、より効果的な学習指導ができた。 →データの分析・指導への活用等、進路指導に効果が出るよう、工夫をしたい。
	4. キャリア教育を充実させ、目標をもって自ら学習する生徒を育成	キャリアガイダンスの実施 (1・2年次) 適職適学ナビの実施 (1年次) 創大研修での講義受講 (2年次) 弁護士による人権講座を実施	C		GRITの予定が詰まっており、土曜日に進路学習を入れることが困難な状況。 計画をしっかりと立て、無理なく実施することが課題。 →創大研修で受講しているキャリア・プランニング・ガイダンスを学校で計画的に実施することを検討。	
	5. 名作・長編の読書運動の推進	朝読書の実施と充実 「図書館に行こうDay」を毎月開催 「Book-Navi Day」での教員からの良書推進 ビブリオバトルによる生徒参加型の読書推進の実施 各種読書コンクールへの応募推進	C		「Book-Navi Day」で教員が推薦図書の紹介をしていることや図書館のさまざまな工夫で図書館利用の頻度は高まっている。 ビブリオバトルなど新しい生徒主体の読書推進活動も定着。 読書感想文コンクールをはじめ、各種コンクールで多数の入賞者を出すことができた。 →良書に親しむ生徒の率がまだまだ低いいため、これからも地道な取り組みが必要。	
	6. 「何かで一番を！」との“可能性を開く挑戦”への支援および顕彰	各種語学コンテストへの出場 応援 クラブ活動の充実 創価グローバル賞の新設	B		ユネスコ協会のコンテストで優秀賞を受賞。 複数のクラブが全国大会に出場。 →生徒の活躍の場をさらに増やしていきたい。	
	7. 接続教育の推進	関西創価中学3年生対象のブリッジ教育の実施 アドバンス・サイエンス・セミナー等高大連携プログラムの実施	C		接続教育は年々充実しているが、まだまだ中高一貫校のメリットが生かされていない。 →中高での連携を強化し、何が必要かとの課題を抽出。さらに施策を具体化していく。	
〔3〕「心」の育成のために 1. 創立精神学習の深化と実践	a. 三人行事・創大研修・教育研修旅行・青春対話 (総合学習GRIT) を充実	担当管理職と教員実行委員長による実行委員会への指導性発揮 月2回の土曜日に「青春対話」を学習、3学期にプレゼン発表 高2創価大学研修における創立精神の深化	A	3.2	創立者の思想・行動を学ぶことが創立精神の根幹。ぜひスクールアイデンティティとしてしっかり学んでもらいたい。これまでの取り組みに対してはもちろん評価しているが、さらなる充実を期待したい。	土曜日 (月2回) の総合的な学習の時間に実施している「青春対話」の学習や諸行事を通して創立精神の深化を図ることができた。 →創立者の著作を読破する運動等、さらなる充実を図りたい。
	b. 教員自身が創立精神を学び、体現し、生徒の創立精神を薫発するための研修を開催	月に1回リーダー育成講座の実施 三行事の取り組みの中で「創立者とともに」を活用	B		月に1回のリーダー育成講座を通して、教員も生徒も創立精神を深めることができた。 →草創期のことを知らない若い教員の人数が増えてきているため、アーカイブによる映像を通じた研修を行う必要がある。	
	c. 創立者指導等アーカイブを活用した「リーダー育成講座」の開催	アーカイブ座談会の開催 アーカイブ映像を活用したリーダー育成講座・創立精神学習の実施 三行事の取り組みの中で「創立者とともに」を活用	B			
〔3〕「心」の育成のために 2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養	a. 「多様性」の尊重を培い、「人権教育」「平和教育」を推進するプログラムの実施	GRITにおける人権学習プログラムの実施 GRITにおける平和学習プログラムの実施	B	3.2	勉強も大事だが、人権や平和教育、またいじめのない学校生活の確立が大事だと感じる。「心」の育成に学校が全力で取り組んでもらえるよう期待する。	GRITにおける人権学習・平和学習プログラムを通して、多様な考え方を認識するとともに、人間としてあるべき姿や平和の尊さを学ぶことができた。一方、理念や思想を学ぶ機会は多かったが、身近なところでの実践が課題。 →人権教育・平和教育・いじめ防止プログラムなどをスケジュール化し、より計画的に学習できるよう工夫をしたい。
	b. 「いじめ防止プログラム」の研究と実践。対応力の強化のための研修開催	いじめ防止基本方針の策定 GRITにおける人権学習プログラムの実施 保護者相談室の設置	B			
	c. 男女の特性に応じた、きめ細やかな指導の実施 (特に女子教育) 男女別集会の開催	月に1回「幸福の乙女」学習会を実施 男女別集会の実施 (適宜) 生活組織別集会の実施	B		女子に対する指導は充実してきている。 男子に対しては手が入っていない。 →男女別の指導会企画・実施。	

お教育活動重点・実践項目に	〔3〕「心」の育成のために 2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養	d. 「天の川ホテル復活プロジェクト」を通しての地域貢献と自然との共生を学習を実施	G R I Tで蜚復活の取り組みを学習 交野の各地での蜚復活に大きく貢献	B	3.2	地元交野でも、学園の取り組みに注目している。今後の活動にも期待したい。	SGHの取り組みから、環境への意識は高まっている。各種保存会の活動も活発。課題は、これらの取り組みが校内に留まっていること。 →これまでの取り組みが校外での運動等に発展することを目指す。
教育力向上のための取り組み		1. 授業力向上のために、授業公開、授業研究を推進	1・2学期に授業公開週間を設ける。 各学期に保護者対象の授業参観を実施。	B	3.1	どのようにすれば成績が向上するか。親には知識・情報がないので、学校で学習意欲が湧くような工夫・激励をお願いしたい。 生徒の教育力向上は教員の授業力に掛かっている。生徒の授業アンケートを参考に教員の授業力をより向上させてほしい。	毎年、全教科が目標・取り組みなどのシラバスを作成し、年間計画を立て、授業力アップに取り組んできた。 6月、11月に授業公開週間を設け、全校で授業公開と授業参観に取り組んだ。 各教科において授業公開の年間計画を立て、全員が一年に一回は授業公開をできるように取り組んでいる。 学期に1回(年に3回)、保護者対象の授業公開を行い、アンケート記入をしていただき、各教員にフィードバックしている。
		2. 教員研修の強化および研修内容の共有化	校内研修の実施。 外部研修への参加を奨励。	B	3.0		全教員参加のアクティブラーニング研修を実施。
		3. 校務改革を進め、生徒対応や教育力向上のための時間を確保	会議の時間短縮、業務の簡略化。	C	2.3		校務改革の討議が進み、2015年度からペーパーレスの日程確認が可能となり、中高別職員会議の充実が図られることになった。
		4. 生徒による授業評価の実施と効果的な利用	2学期に授業アンケートを実施し、授業改善に取り組む。	C	2.5		生徒への授業アンケートを実施し、課題を見つけて次年度への取り組みに活かしている。
		5. 保護者と協力したのトータルした人材育成	a. 保護者への進路ガイダンス、思春期の関わり方などのセミナーの実施 b. 保護者との連携強化(家庭訪問の励行、HP保護者用バナーの充実)	C	2.3		4月末の保護者会で実施。 まだまだ努力の余地あり。 1年生を中心に家庭訪問実施。 一課題の明確化と改善の取り組み。各種取り組みの記録を残す。
安全・安心／施設／設備の充実について		1. 事故防止の体制の強化。チェックと対策(熱中症対策等)	登下校安全協議会を開催。	B	2.9	安全ステーションの設置で、安心して通学できるようになった。 安全ステーションが設置されたことで、地域住民も喜んでいる。	通学路の安全対策として警備員の配置を実施している。登下校安全協議会を通して、迅速に安全対策を講じる体制を確立。 安全ステーションの設置。
		2. 交通事故防止・ネット安全教室等の安全教育の強化	外部講師を招いて、各種講習を行う。	B	2.7	警備員が通学路に立つことで、地元としても心強い。感謝している。 電車内、また登下校時の生徒の姿を見て、電車内での過ごし方、マナーがずいぶん変わったと感じている。	交通安全講習、ネット安全セミナー、熱中症予防セミナー、薬物乱用防止セミナー、AED講習などを実施し、生徒の意識向上をはかることができた。
		3. 防災教育の推進と震災対応力の強化	防災訓練の実施。	B	2.6	防災訓練に対する意識が高くなることで、マナーもよくなったように感じる。	防災訓練(火災・地震対応)の実施と災害時用備蓄品の完備を推進することができた。
		4. 障がいをもつ生徒、保護者に対応した施設の改善	本年度は設置できず。	C	2.2		一校舎の段差解消には、まだ至っていない。校舎の改修・建て替えの計画ができるまでは応急処置で対応。
		5. 生徒が抱える悩み・課題解決のための取り組みの強化	a. 教員間の情報共有(ケースカンファレンス等)の推進 b. ケーススタディの実施	C	2.6		生徒にとって特別なケアが必要な場合には、随時ケースカンファレンスを実施し、情報共有をしながら指導を進めることができた。
その他		1. 特別クラブの強化(野球部、陸上部駅伝)	活動実績を評価する。(野球・陸上長距離)両クラブとも大会で優秀な成績を残した。	B	2.9	新聞・マスコミ等に学園の記事が出れば、地域の喜びとなる。野球部に対する期待は高い。	一般入試で活動実績区分を設け、運動能力に優れた生徒を選抜できるようにした。
		2. 広報活動および受験啓蒙の強化	オープンキャンパス・入試説明会を実施。 各地での創価教育ガイダンスの開催。	B	2.8	寮生・下宿生へのサポート体制に対して、評価が低いのが気になる。やっていないのではないかと、まだまだできるのではないかという思いがあつての評価だと思う。	アンケートをもとに受験生家庭にオープンキャンパスの案内等激励のハガキを送付した。 →オープンキャンパスや入試説明会への参加者を増やす努力をする。
		3. 学校評価の充実	全教員による学校評価を実施。	B	2.6		今年度も全教員による学校評価(4段階評価)をもとに、教員による自己評価委員会を開催。振り返りがより充実した。 一学校評価のPDCAサイクルを確立させ、学校の発展にさらに活用していきたい。
		4. 寮・下宿生のサポート体制の強化	グローバル会議(寮生・下宿生の要望を聞き、検討する会議)を開催	B	2.4		寮生・下宿生に対する昼食支援を含め、奨学金制度をさらに拡充することができた。 学期に1回、寮・下宿それぞれのグローバル会議を実施し、寮生活・下宿生活の改善を図った。
		5. SGH事務局体制の整備	本年度は設置できず。	C	2.4		一現在、事務局体制の整備を検討中。 来年度に向けて体制作りや人選を行っている。

【今後の改善方策】

- ① 各項目について、その到達度をわかりやすくするために、3年先までの数値目標を設定する。
- ② 学校運営において、PDCAサイクルがきちんと循環して機能していくように評価体制などを確立していく。
- ③ 指導要領の改訂を念頭に置いて、グローバルリーダー育成のための戦略的なカリキュラムの研究と作成をしていく。これにより、さまざまな課題の解消も同時に解消していく。
- ④ グローバル人材育成プログラムの開発・実践。
- ⑤ 教員の資質向上のため、各種研修を行い、情報を共有していく。
- ⑥ 授業改革の推進。
- ⑦ タブレット使用の推進により、ICT教育の一層の推進を図る。
- ⑧ 検定試験の積極的活用、推薦図書への提示や図書館利用の推進を通し、語学・読書教育の充実。
- ⑨ 生徒募集・入試における人材獲得のための施策の充実。
- ⑩ 生徒の安心・安全の更なる向上に取り組む。無事故を達成するため、電車内・通学路の安全・マナーの徹底に取り組む。

【今後の学校運営のあり方】

文科省SGH(スーパーグローバルハイスクール)校として取り組む5年間のうち2年目に入る本年は、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との本校の最も大切な平和の信条から出発した新たな「世界市民教育プログラム」をさらに推進してまいりたい。同時に、その主体者たる生徒自身の限りない可能性を開き、世界平和を担う「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を育てていく。以上の理由から、本年度基本方針を上記のように定め、全教職員が心を合わせ全力で取り組んでまいりたい。また「連携」をキーワードとし、「高大連携」「小中高連携」「保護者連携」「教員間連携」「SGH校連携」を念頭に置き、各目標を達成していく。

2015年度 学校教育目標

関西創価高等学校(評価は4段階で行う)

4: 充分達成できた

3: 少しは進んだ

2: 現状維持だった

1: 後退した

◇教育活動・実践における重点項目

番号	項目	評価	4	3	2	1
〔Ⅰ〕	「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために	3.4	25	25	2	0
〔Ⅱ〕	「可能性」の育成のために	3.2	17	27	8	0
〔Ⅲ〕	「心」の育成のために	3.2	19	26	7	0

◇教育力向上のための取り組み

番号	項目	評価	4	3	2	1
〔Ⅰ〕	授業力向上のために、授業公開、授業研究を推進	3.1	12	31	9	0
〔Ⅱ〕	高大連携しての教員研修の強化および研修内容の共有化	3	13	25	13	1
〔Ⅲ〕	校務改革を進め、生徒対応や教育力向上のための時間を確保	2.3	1	21	24	6
〔Ⅳ〕	生徒による授業評価の実施と効果的な利用	2.5	4	19	27	2
〔Ⅴ〕	保護者と協力してのトータルした人材育成	2.3	3	13	34	2

◇安全・安心／施設・設備の充実について

番号	項目	評価	4	3	2	1
〔Ⅰ〕	事故防止の体制の強化。チェックと対策(熱中症対策等)	2.9	7	33	12	0
〔Ⅱ〕	交通事故防止・ネット安全教室等の安全教育の強化	2.7	5	25	22	0
〔Ⅲ〕	防災教育の推進と震災対応力の強化	2.6	4	22	26	0
〔Ⅳ〕	障がいをもつ生徒、保護者に対応した施設の改善	2.2	1	13	35	3
〔Ⅴ〕	生徒が抱える悩み・課題解決のための取り組みの強化	2.6	4	23	25	0

◇その他

番号	項目	評価	4	3	2	1
〔Ⅰ〕	特別クラブの強化(野球部、陸上部駅伝)	2.9	7	33	11	1
〔Ⅱ〕	広報活動および受験啓蒙の強化	2.8	8	26	17	1
〔Ⅲ〕	学校評価の充実	2.6	4	26	21	1
〔Ⅳ〕	寮・下宿生のサポート体制の強化	2.4	5	15	29	3

◇基本方針

〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の資質を育む教育活動の実践

〔Ⅱ〕「可能性」と「心」の育成の推進

文科省SGH(スーパーグローバルハイスクール)校として取り組む5年間のうち2年目に入る本年は、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との本校の最も大切な平和の信条から出発した新たな「世界市民教育プログラム」をさらに推進してまいりたい。

同時に、その主体者たる生徒自身の限りない可能性を開き、世界平和を担う「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を育んでいく。

以上の理由から、本年度基本方針を上記のように定め、全教職員が心を合わせ全力で取り組んでまいりたい。

また「連携」をキーワードとし、「高大連携」「小中高連携」「保護者連携」「教員間連携」「SGH校連携」を念頭に置き、以下の目標を達成していく。

※以降の【 】内は該当する項目の達成度を%で示し、3年先までの目標を挙げた。

◇教育活動・実践における重点項目

〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために

1. スーパーグローバルハイスクールの研究開発構想の着実な実施。【100,100,100】
2. アクティブラーニングが授業の中に取り込まれている授業数の推進。【60,85,100】
3. 探究型総合学習GRITがよかったと述べる生徒の数の増進。【60,70,80】
4. 大学との連携の強化。学校教育に参画した大学教員、ならびに大学院生の数の増加。【40, 60, 80】
5. 英語力の強化と英検受験の成績向上。準1級【2,4,6】2級【50,60,65】
6. 環境教育(アースカム・蛍などの保存運動)の充実と発展。充実度【60,70,80】
7. 学識者を招き、講演会を実施(Global Citizenship Seminar)。開催回数、事前学習を含めた充実度の増進。【3,3, 4】【60, 70, 80】
8. ICT教育の充実。1人1台のタブレットの実現。【60,70,80】
9. 主権者教育の推進。【2,3,4】

※以降の【 】内は該当する項目を達成している生徒の数を%で示し、3年先までの目標を挙げた。

〔Ⅱ〕「可能性」の育成のために

1. 2時間以上、家庭学習している生徒の増進。【60,70,80】
2. 学校設定科目SPへの参加生徒数の増進。【50,60,70】
3. SGH国内、国外フィールドワークを目指す生徒数の増進。【40,50,60】
4. スタディサポートテストを活用し、成績アップさせた生徒の増進。【50,60,70】
5. 学年、進路指導部主催のキャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進。【40,50,60】
6. 名作・長編の読書運動に年間通して挑戦したという生徒数の増進。【50,60,70】

※以下は開催回数を目標値として【 】内に挙げた。

〔Ⅲ〕「心」の育成のために

1. 創立精神学習の深化と実践
 - a. 三大行事・創大研修・教育研修旅行・青春対話(総合学習GRIT)を充実し、開催していく。【10,10,10】
 - b. 教員自身が創立精神を学び、体現し、生徒の創立精神を薫発するための研修を開催。【3,3,3】
 - c. 創立者指導等アーカイブを活用した「リーダー育成講座」の開催【10,10,10】
2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養
 - a. 「多様性」の尊重を培い、「人権教育」「平和教育」を推進するプログラムjの実施。【3,3,3】
 - b. 「いじめ防止プログラム」の研究と実践。対応力の強化のための研修開催【3,3,3】
 - c. 男女の特性に応じた、きめ細やかな指導の実施(特に女子教育)男女別集会の開催。準備も含めた会合の回数。【3,3,3】
 - d. 「天の川ホテル復活プロジェクト」を通しての地域貢献と自然との共生を学習する回数。【3,3,3】

◇教育力向上のための取り組み

〔Ⅰ〕授業力向上のために、授業公開、授業研究を推進する回数。【3,3,3】

〔Ⅱ〕高大連携しての教員研修の強化および研修の回数。【3,3,3】

〔Ⅲ〕生徒対応や教育力向上のための時間を確保するための校務改革検討回数。【3,3,3】

〔Ⅳ〕生徒による授業評価の実施。【3,3,3】

〔Ⅴ〕保護者と協力してのトータルした人材育成

- a. 保護者への進路ガイダンス、思春期の関わり方などのセミナーの実施回数。【2,2,2】
- b. 保護者との連携強化(家庭訪問の励行、HP保護者用バナーの充実)満足度の増進。【60, 70, 80】※この項目は%

◇安全・安心／施設・設備の充実について

〔Ⅰ〕事故防止の体制の強化。チェックと対策(熱中症対策等)を検討課題とする事故防止委員会の開催回数。【2,2,2】

〔Ⅱ〕交通事故防止・ネット安全教室等の安全教育の強化 委員会の開催回数。【10,10,10】

〔Ⅲ〕防災教育の推進と震災対応力の強化 防災訓練の開催回数。【2,2,2】

〔Ⅳ〕障がいをもつ生徒、保護者に対応した施設の改善を検討する委員会の開催回数。【2,2,2】

〔Ⅴ〕生徒が抱える悩み・課題解決のための取り組みの強化

- a. 教員間の情報共有(ケースコンファランス等)の開催回数。【4,4,4】
- b. ケーススタディの適切な開催。【100,100,100】※この項目は%

◇その他

〔Ⅰ〕特別クラブの強化(野球部、陸上部駅伝)

〔Ⅱ〕広報活動および受験啓蒙の強化

〔Ⅲ〕学校評価の充実

〔Ⅳ〕寮・下宿生のサポート体制の強化

〔Ⅴ〕SGH事務局体制の整備